



通信

HP 学校だより
R8.1.15
NO.34
文責 伊藤美佳



考える子どもたち

3学期が始まって、子どもたちの成長に驚かされた場面を紹介します。

朝の登校時にあったできごとです。

毎日、学校前の横断歩道付近に立って見守りをしています。安全のためとはいえ、大人が立っていることで、子どもたち自身がちゃんと周りを見て安全確認をしたり、判断したりすることなく横断していると思っていました。ある朝、いつも通りに見守りをしていると、横断歩道前で止まる班がありました。先頭にいた副班長に「なぜ止まっているの」と確認すると、「自動車がそこに来ているから」と教えてくれました。ちゃんと自分で確認して、大人の指示を待たずに判断して止まっていたのです。その回答を聞いてとてもうれしくなりました。ゆっくりと歩いて横断歩道までの時間を調節する班もあります。「自分で考え、判断する」ことのできる豊坂っ子がどんどん増えてくれることを期待したいです。

4年生が体育の授業でなわとびをしていました。うまくできない時に、ペアの子と会話をしているのが聞こえてきました。「こうしたほうがいいんじゃない」「ここで跳ぶんだから・・・」など、ただ練習をするのではなく、どうしたら跳べるようになるのかを考えて、意見交換して練習していました。考えることが日常的になっていることがうれしかったです。

災害は忘れたころにやってくる

1月6日（火）に鳥取県、島根県の山陰地方で地震がありました。この地方では、必ずくると言われている南海トラフ地震の不安を常に抱えています。そんな地域だからこそ、「備え」としての避難訓練はとても大切なものだと考えています。

1月13日（火）の掃除の時間に、予告なしの避難訓練を行いました。「地震発生」の放送が流れ、さっとシェイクアウトする子どもたち。ただし、掃除の時間ですから、それぞれ違う場所にいます。運動場周り、体育館、図書室・・・ いろいろな場所からの避難です。しかも、教員がついていない場所もあります。「避難開始」の放送を聞くと、運動場の体育倉庫前に集まってきました。そこでも、教員がいなくてもクラスで集まり、並ぶことの練習です。1年生の中には、早く来てずっとクラスの子たちが来るのを待っている子もいました。高学年になると、自分たちでさっと集まって、並ばせていました。いざという時の「備え」は物品をそろえておくことも大切ですが、子どもたちが自分で考え、行動できることがとても重要だと思っています。そのための「経験」を積み重ねるのが避難訓練です。ご家庭でも、一緒に「避難訓練」を行ってみてはいかがでしょうか。子どもたちが考え、行動できるようになるために、大人がどんな支援をすることが大切か考える機会になると考えます。学校、家庭、地域で、ともに子どもたちに様々な「経験」をさせていきたいです。

